

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871500138		
法人名	有限会社 ハートビル		
事業所名	グループホームあとむ	ユニット名	A
所在地	〒319-1541 茨城県北茨城市磯原町磯原2334-29		
自己評価作成日	平成23年5月25日	評価結果 市町村受理日	平成23年12月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年7月26日	評価確定日	平成23年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・年度目標「ともに暮らす」を考え、入居ではなく、暮らすことを実践することに注力している。 ・趣味の工房室「かもめ」を利用して、各棟月に1度の食堂や、書道など趣味活動を通し、自己表現、自己決定を大切にしている。作品に対しては、必ず評価される喜びを味わっていただくなど、いつもとは違った雰囲気を提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は自然に囲まれた静かな住宅地にある。 事業所の周りには塀などの囲いがなく、事業所前の道路に手作りの木製ベンチを置き、近隣住民が休憩に利用したり、利用者と近隣住民との交流の場となるように工夫をしている。 利用者は自治会に加入し職員と一緒にゴミ集積所の清掃をしたり、職員は新年会に参加しているほか、事業所の夏祭りなどの行事に近隣住民を招待しており、事業所自体が地域の一員として交流を図っている。 共用空間の一角に「昭和の駄菓子屋」の看板を立て駄菓子を準備して楽しみの空間を作ったり、ゆったりとしたソファや昼寝用のベッドを置くなど、利用者が集まって楽しみながら寛いで過ごせるよう工夫をしている。 3ユニットはそれぞれ独立して建てられており、自宅感覚で各ユニット間の交流をしている。 利用者が趣味を行ったり、行事の際に食事会場を使用している別棟があり、夏季にはそこで昭和時代のかき氷器で作ったかき氷を食べることが利用者の楽しみとなっている。 外部評価に於いて特に指摘項目がなくても、自己評価で気付いたことに対して独自に目標達成計画を立てるなど、常に目標を持って支援に努めている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室、玄関に掲げ、ケア会議や申し送り時に確認し実践している。 職員は理念を名札と共に携帯している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を代表者と職員で話し合っって作成している。 理念を名札の裏に携帯するとともに、会議や申し送り時に確認し、共有しながら実践につなげている。 年度毎に理念にそった目標を掲げて支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常会に加入し、常会の行事、ゴミ集積場の掃除役割も担っている。	自治会に加入し利用者は職員と一緒にゴミ集積所の清掃をしているほか職員は新年会に参加しており、事業所自体が地域の一員として日常的に交流を図っている。 事業所の夏祭りに近隣住民を招待しているほか、中学生の体験学習を受け入れている。 事業所前の道路に手作りの木製ベンチを置き、近隣住民が休憩に利用したり利用者や近隣住民との交流の場となるように工夫をしている。 災害時に近隣住民の支援を受けたり、事業所の備蓄品を融通するなど互いに助け合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事、イベントに近所の方が訪れたりと交流を図っており、認知症に対する理解を深めていただくようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、評価の前後には課題、改善案など議題としている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、地区の常会長、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動報告を行うとともに、運営上の問題点などを話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 職員の身だしなみや接客の仕方について意見があり職員で話し合っって改めるなど、委員が協力者やモニター役となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と電話だけではなく、お互いに行き来し、協力関係を築いている。	職員は日頃から事業所の運営上の問題等を市担当者に相談してアドバイスを受けたり、他の部署を訪問した際にも立ち寄り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えるほか、連絡を密にとり協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては出来ていないが、天気の良い日は玄関を開放し、職員と一緒に外へ出たり、草取りをしたり拘束のないケアに努めている。	マニュアルを作成しているほか、研修会を通して全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。利用者の安全のためやむを得ず玄関にブザーとモニターを設置しており家族等の同意を得ている。身体拘束を行う場合には書面で利用者や家族等の同意を得ているが、経過を記録に残すまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束を行う場合には、経過を記録することが望まれる。工夫したり、「切迫性、非代替性、一時性」を踏まえた検討を重ねるなど身体拘束をせずに自由な暮らしができるように取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等については学んでいないが、入浴時に身体チェックしたり、バイタルチェック時にも異常がないか確認し、異常があれば上司に報告し、防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用は出来ていないが、資料等で学ぶ機会は作られている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解、納得していただき契約の締結を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見は特に無いが、家族等が利用料支払いなどで来訪した時や面会時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記しているほか、玄関に意見箱を設置している。 運営推進会議や家族等の来訪時に話を聴き、出た意見や要望は速やかに対処するよう努めているが、出た意見等を記録に残したり、経過や結果を記録するまでには至っていない。	利用者や家族等の意見や要望は、些細なことでも経過や結果を記録して全職員で共有するとともに、運営に反映させるよう取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のケア会議、運営会議で意見や提案を反映させている。	管理者は月1回定例のミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り意見等を気軽に出せるような雰囲気づくりに努めている。 「排泄チェック表の改善」、「部屋のレイアウトの変更」、「災害時の不安解消のため夜間の職員を2名に増員」など、職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の成長に合わせ、見直しており、その都度通達して周知を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外の研修と勉強会などを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設との交流を図っており、協議会を構築中。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自己紹介をし、お互いの名前を言ったり、常に超え掛けしながら、最初になじみの関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に、日常の様子や、生活面での様子を報告したり、話をしやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不穏な状態を取り除くように、その状況に沿った対応をするよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、職員と一緒に掃除をしたり、食事作りをしたりして、共に暮らしているという関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の他に、行事にも参加いただき、本人と一緒に過ごす事で絆を深め、現状態を見て安心していただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで本人が使用していた物や大事にしているものを持ち込んだり、面会や外出、外泊ができるよう声かけしている。	利用者の親戚や知人が来訪している。 職員は家族等の協力を得て盆や彼岸に墓参りに出かけたり、年末年始に外泊ができるように支援をしているほか、知人や友人に電話で話しができるよう支援をしており、できるだけ馴染みの人との関係が途切れないように努めている。 月1回馴染みの美容師が来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルがあった場合など、職員が間に入り、お互いの係りを改善させるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人、ご家族の経過をフォローし、相談にのっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	欲しい物、不足の物があれば、提供したり、一緒に買物に行くよう努めている。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、さりげなく話かけて思いや希望を聴き、利用者の心に寄りそった支援ができるように努めている。思いを表わせない利用者には話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日誌、バイタルチェックなどででも1人一人の現状把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のケア会議を全員参加で行い計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意向や課題を把握して全職員で話し合い、その人らしく暮らせるように作成するとともに、家族等の来訪時に説明して確認を得ている。 職員は日々の記録から情報を共有するとともに、月1回のケア会議で話し合い、現状に即した介護計画になるよう定期的に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌及び申し送りノートなどで情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「かもめ」での食堂や趣味活動の場を作り、柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美術館、図書館などお客様が豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ主治医への受診を支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援するとともに、受診時にはバイタル管理表を持参し適切な医療が受けられるように努めている。 月1回内科医師と歯科医師の訪問診療がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常やいつもと違うと感じた時は看護師に相談し、指示を受けるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者、ご家族も含め、情報交換、相談に努めている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する同意など説明しているが、チームではまだ取り組めていない。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の対応指針を作成し、契約時に利用者や家族等に事業所でできることとできないことを十分に説明するとともに同意を得ている。 重度化した場合の対応手順をフローチャートにしているほか、職員は研修を受講し看取りに対する心構えができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員ではない。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や消防の方も参加し、避難訓練を実施している。	消防署立会いのもと年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施し近隣住民の参加を得ているほか、定期的な設備点検をしている。 避難訓練の結果を記録するとともに反省点などを話し合い、改善に努めている。 緊急連絡網を掲示したり、災害時に備えて食糧品や飲料水などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活の中で排泄や着替え、入浴時など1人一人の尊厳を大切にしながら支援している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレや入浴介助時には誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど、取り扱いには十分注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や会話の中で、出来る限り本人の希望に添えるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のレベルややりたい事を見極めて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回パーマ屋さんが来て髪を整えている。また、本人の希望により、毛染めや爪の手入れ（マニキュア）も行っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に、出来る範囲で食事作りや配膳、食器拭きを行っている。食事何かが食べたいかを聞き、参考にしている。	職員は利用者と一緒に会話をしながら楽しく食事ができるように支援をしている。 献立はユニット毎に旬の食材や利用者の好みなどを踏まえた工夫をしている。 利用者は職員と一緒に食材の皮むきやすり下ろしなどの下ごしらえ、味見、食器洗い、食器拭きなど、能力に応じた役割を担っている。 利用者が趣味を行ったり行事の際に食事会場に利用している別棟があり、夏季にはそこで、昭和時代のかき氷器で作ったかき氷を食べることが利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人一人の食事量、水分量を日誌に記録している。また、お茶ゼリーを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがいを徹底している。また、週2回、入れ歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力トイレでの排泄を支援している。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに時間を見計らって誘導したり、利用者の様子から声かけすることで、紙パンツ使用の利用者でもトイレで排泄ができるように支援をしている。 夜間はポータブルトイレを利用するなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、レクを実施し、水分も多めに摂取するよう支援している。また、下剤も上手に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を本人の意向、健康状態に沿って実施している。	入浴は週3回となっているが、利用者一人ひとりの意向や健康状態によりいつでも入浴ができるように支援をしている。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら声かけを工夫したり、シャワー浴や清拭などで無理のないように対応している。 利用者はシャワーチェアの利用で安心してゆったり入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの健康状態にあわせて、休息したり、消灯までは自由にTVを観たり、雑談したり、各自の状況に応じて入床している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋には各自の名前を記入し、1人ひとり手渡し、服薬を確認している。また、飲めないお客様に対しても工夫し服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かせるようなことを提供したり、散歩や草取りなどで気分転換を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は日光浴や散歩など実施している。また、年1回は家族も一緒に食事会（外食）を実施している。	天気の良い日は利用者の希望や体調に合わせて散歩に出かけたり、外気浴ができるように支援をしている。 利用者の希望にそって個別の散歩を支援してるほか、車で買い物などに出かけられるように支援をしている。 年間計画を立て、家族等と一緒に花見や紅葉狩りなどに出かけられるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心するお客様もいるため、小額ではあるが、お金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話をしたり、手紙を書いて送ったりの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングに花を飾ったり、写真を撮ったり、季節感、生活感を出すよう支援している。	共用空間は利用者が居心地よく過ごせるよう音や光、換気に配慮をしている。 職員は四季が感じられるよう利用者と一緒に七夕飾りなど季節毎の飾り付けをしたり、廊下には利用者の作品や季節の花を飾り、穏やかに過ごせるように支援をしている。 居間にはソファを設置したり、部屋の一角に「昭和の駄菓子屋」の看板を立て楽しみの空間を作っているほか、昼寝用のベッドを置くなど、利用者が三々五々集まって楽しみながら寛いで過ごせるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事する席とは別に自由にTVを観たり、雑談したり、気の合うお客様同士が座れるよう支援している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた小物や家具、衣類など気に入ったものを持参したり、絵や写真など飾っている。	居室の入り口に職員手書きの利用者の似顔絵が飾られており温かい雰囲気となっている。 利用者は居室にテレビや文庫本、使い慣れた家具を持ち込んだり、家族等の写真や習字などの作品を飾っているほか、刺し子などの手芸品を置くなどして居心地よく落ち着いて暮らせるように工夫をしている。 ベッドから起き上がり易いよう、すがり棒を備えるなど安全で自立した生活ができるよう配慮をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど大きな文字で場所が分かるようにしている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあとむ

作成日 平成23年12月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束に関しては、常にケア会議で論議しているが、あくまでも滑落防止の為にのみ使用している状況。	車椅子で過ごす時間を極力少なくし、ソファなどでゆったりと過ごしていただく。	車椅子にY時帯の使用を、移動時、食事、体操などと限定し、その他の時間はソファで過ごせるようにする。不足はソファ購入。	1ヶ月
2	6	家族の要望など、経過記録票に記録している。	各棟のご家族の意見、要望を全職員で共有し、運営、介護計画に反映させる。	各棟に「ご家族からの意見・要望」ノートを配布し、漏れなく記入する。	8月より実施済
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。